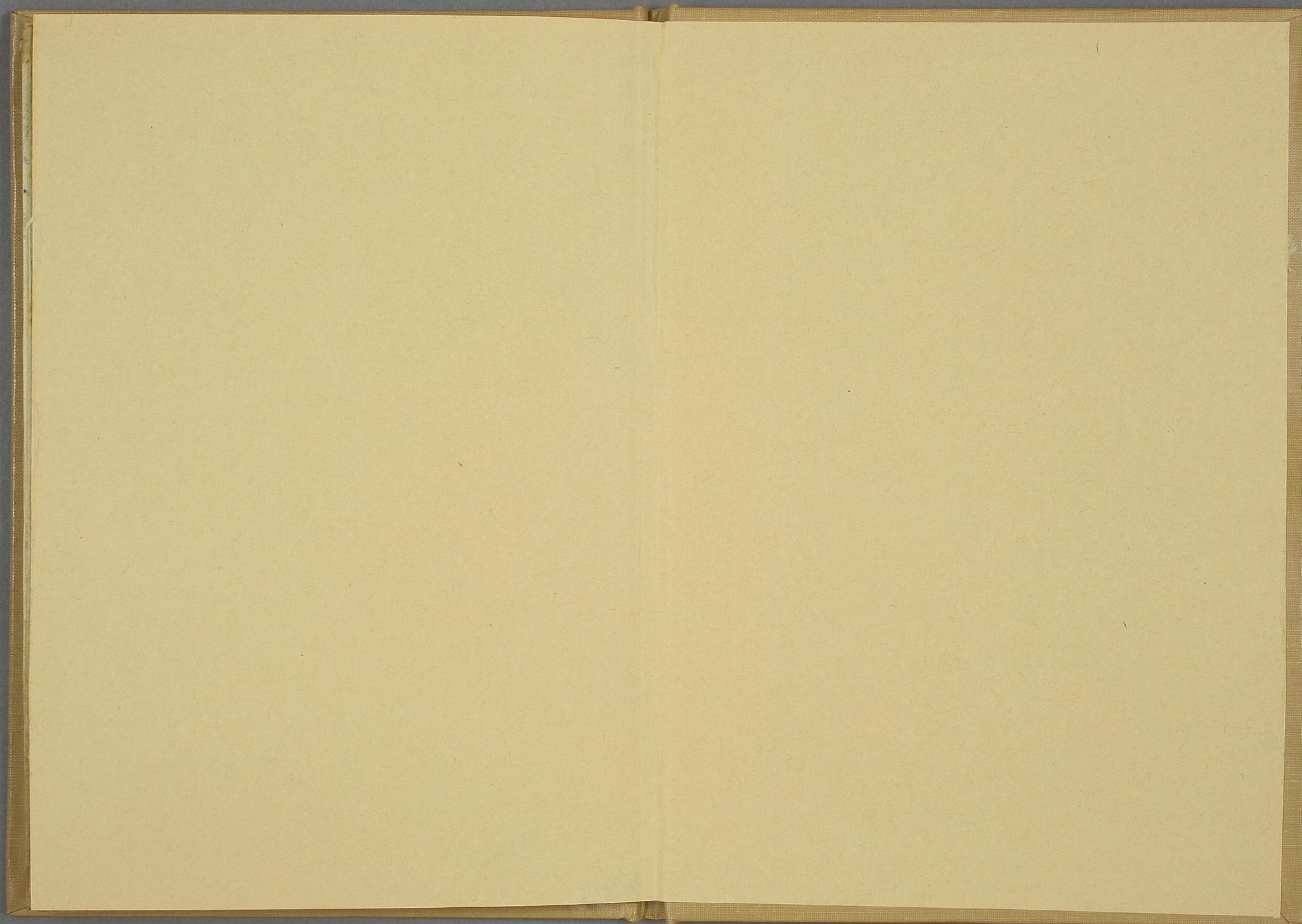


和装本

二五  
2257





戊午晴雨考  
完

二五  
2257

門 二 5  
號 2257  
卷

松浦琴濤著

下元 戊午氣候論

堯明堂藏梓

安政五戊午年運氣考

越後水原偶居

松浦琴濤正規著

昭和五年三月一日  
寄  
中島謙吉氏贈

年中總考

太歲兌宮七赤金 年中總考 納音天上火

司天少陰君火 上半年ヲ司リ

太運升明太微火運 太一天符

在泉陽明燥金 下半年ヲ司ル

下元戊午之歲ハ西の主星七赤の金年中の惣總とまり  
て納音ハ天上の火なり 扱其政ハかのそハ戊午ハ土火  
の徳と司リ太歳の金亮ハ万物堅実としてこのり

よく満る事と主り納音又火よりて万物榮ひさうん  
から事と司る又運気よりて是と観れ火運升  
明の歳として上半年と司るもの少陰の火下半年を  
司るもの陽明の金運ハ丹天の火として上牛女圭  
壁の四宿を多して下戊癸の位とのぞき星宿年とあふ  
て火運升明の歳あり

右太歳と運とまじ六気の主宰を以此戊午年の氣を  
うかがふ先干支ハ火土徳を合せて炎暑湿熱行かれ  
万物生育の徳と專し主り太歳の金ハ冷涼の氣  
よりて万物このり能事と主る納音又火よりて榮

盛んあり徳を行ふこととよりて観れハ是にて今年  
ハ火の氣さうんとして金の氣冷殺なる事ハ火ハ制せ  
れて上ニ半年ハ行かれ下ニ半年ハ火  
の氣大運ニ天合時先よりて行われ下半年ハ金  
の氣満ちて秋冬の氣も多くなり平年より  
長んて十五日かども時氣違ひ又運とよりてう  
かがふハ太運の火と司天の火とあふり氣合するゆへハ  
平和とありて歳の氣大過を以てふ及ぶハ順化の歳  
なり故に殺したりすこと有害なく圭壁の二宿ハ乾  
天の令をつまじり牛女の二宿ハ水土の徳を司りて

火焚の元大下行をれ 雨かどしり 平和の歳をれ  
ハ之と多し 太一天符の歳と云かりされども今年ハ  
火元多し 太歳の七赤なる主と對する故大金の  
事ありし 善惡邪正もやうなる歳に人病の吉凶も速  
くありと云る

扱今年ハ元化運行の早き 曇きなり 天合時と云るハ  
平和のときありと雖も 火元多し 行われぬ時元  
さやくありて 草木もよさく 元作物ハすてこのり  
く上の年なり 丁巳年大寒の節十二月十日前後  
より甚しき大寒元氣爲て 雪大降 農事人の憂

さえくろり 電雪を元 春の陽元のびくく  
なれども 其間ハ晴日ありて 暖和なる事もある  
元 此月下旬すく 地人も元

二月此月十日の次まて 兎角峰をさえくろり  
元 寒風 雪ありと雖も 中旬より 次天ハ春陽  
の元化とあり 暄暖の令行れる間ハ 雨湿多し 元氣  
不足 蒙脚して 草木と潤なり 此とき人元和  
くきて 病人も多し 元 又中下旬の頃地人も  
も折るなりと云る 元 大なる事ハなりと云る

て今年ハ大雷なりて大地震ハなるべし

三月此時前二月下旬より次第ニ落暑の令来り  
て草木もつびやましく此月七日八日の次より晴日多  
く春陽正しく行かれ梅をもちたのときより時  
先立ちて開へし中旬の頃湿雲ありて雨のり  
勝たれども下旬より晴天白日多し暄暖の令来  
りりかれ雨程より降人氣候下りなり

四月此月暑気もやまき来りて万物さるんは半

中旬の頃より大暑気と催し晴天多しなれども  
下旬より雨より勝りて時分はよわら冷気の日  
も入りしるるも雨んは此四月中旬より五月の中  
旬の頃風邪流りしして急變往來の病も雨ん  
次用心す

五月此月十日の次より陰りの空多し雨り勝  
たれども中旬より晴天となり大暑の令来りて雨降  
ふんとなれども妻しして晴天となり二十七八日の頃  
より暑気大し来り急變しして雨のり雷雨

とちり〜国所よりよんで氷なほも降らんうたれども  
此時より早魁かんの死まじりりて夕日あり〜雪をやき  
こがすぬ〜ならん〜

六月此時前月より大暑となり只間よ暴夕ひんがし三雨  
あり〜雨と籠も晴天白日多〜炎わつ甚〜  
金も石もそろがす〜ときの大暑行われ中旬の死  
湿雲雷鳴なほもあり〜蒸ひりあつ〜雨うん〜  
れ〜も風ありて吹〜し其間よす〜冷気の日  
も〜り〜籠も南風〜なり土用のうち雨の気

〜と〜り間〜晴天白日のり〜てあさゆ〜水  
す〜気化も入交る事も〜ん〜も其暄しづんの  
日〜た〜晴天白日のり〜てあさゆ〜水  
もき〜〜凍こり春正月二十日頃〜前節のぬ  
〜雪あふれを〜雨うりお〜寒風吹起り下  
旬より漸〜暑をあらわれ風暖の気〜  
然れども餘あるハ兎角さ〜二月十日頃  
より暑を〜十分〜暄しん暖の令来り雨時  
〜して降る本も是〜次より陽気と〜て三  
四月上旬まで其め〜程〜雨と風ありて





草木の花さくをも花のさくより早くさむべし四月  
 中旬より晴日多し暑気さやくあり五月中旬より  
 大暑よりさくし暑気さく其炎熱さく間よ今気  
 かる日も入交る事らん次故よ四月中旬より五月  
 中旬の頃より風邪流りする用心すし叔前はん  
 の如し五月中旬より其暑気の間よ雨ありて天気が  
 不定なりと紙も下旬より七月上旬まで雨の気さくす  
 く甚しき暑熱より大旱なるの歳とある次農家  
 水のかけ引用心すし此時人の病肺金と封さ  
 れ風熱の病ありて急熱往来し欬喘心痛目赤

き幸と恙やすし併五六月甚しき湿りありて  
 よわうよ湿雲起り大雷風雨車軸をなうすらぬき  
 かもりありて国所より出て出水等も斗りくすし  
 七月中旬より雨りても残暑猶行われると紙も間よ  
 谷気ありて雨降天氣不定なるし八月上旬より次  
 予よ朝夕冷気を合し雨天勝りて俗よ云んふ  
 りくすてりの歳し秋分けありとよ歳なるう  
 九月中旬より十月のちめ間よ變化のころ晴日  
 多し雨の日ハすくなくすし十月下旬より冷き  
 ちやく来り雪花を花し十一月き気きび



八月此時前所の如く七月十五六日の次より濕雲  
雨風とあり此月中旬まで兎く雨うち雷鳴もと  
もいらりて晴日あれば下旬より天気晴明  
として日中の残暑さうすも紙も朝夕の冷気と  
暑くは催す

九月此月上旬より草木も紅葉とあり晴日の  
多きころなれども中旬より秋の気さうんとして  
冷風あきまり秋色と十分は成り霜かとも  
時は先よりして降きころ

十月上旬までハ前條の如く晴日多しとして日中の熱  
化も残り驅んも候ん秋中旬より天色くもり  
勝りしておろ大雨いらりて国所よりて出水な  
ども斗りころ此時より次より落葉の気化と  
かり雲あり下旬よりハとやく雪あれと候り冷  
風吹てよりそら多し人病ハ風寒の病患ひや  
しし用心す

十一月此時最も次より速く雪あり水もきび  
くこほり其間より暖うたり事ありハ前月下

旬に此月地震も所んうとて上旬より雨の日も雪  
とありき氣喜しるへ

十二月此時前月より次第に大雪山をたぐり雪  
風をけし堅氷とたぐりもれとも大寒の節に入  
雪も多しと報も却てあつたなる日も入まじり  
間も晴日ハ春の如きとあつたり人々氣成り  
かなり先ツ歳の違ハ上の中年と知へ

丁巳十一月出之

